

みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

12/9

県立常陸大宮高校生徒がパラオ共和国研修生とテレビ電話で交流!!

茨城県の令和2年度オリンピック・パラリンピック教育推進校に指定されている県立常陸大宮高等学校1学年71名の生徒が、異文化理解及びおもてなしの心を育むことを目的に国際交流大使のケネリーさんとシュナさんとテレビ電話を活用した交流授業を行いました。

はじめに、パラオ在住経験のある本市職員からパラオの人口や位置などの基本情報のほか、パラオでの経験談や外国人とコミュニケーションを取るための手段について話しました。

その後、本市で2020年7月まで滞在し研修をしていたケネリーさんとシュナさんとテレビ電話をつなぎ、生徒から日本で驚いた生活習慣の違いや好きな食べ物・スポーツ、アニメなどの様々な質問を通して相互理解を深め合う機会となりました。最後に、ケネリーさんから「パラオへ行ってみたいですか？」との問いに、生徒全員が行ってみたいとの答えでした。

参加した生徒からは、「もっと交流を深めるために、英語を勉強したい」「東京2020大会ではパラオ選手を応援したい」などの感想がありました。



▲パラオ紹介の様子



▲研修生と画面越しで交流

1/28

大子特別支援学校とオンライン交流！

パラオの魅力を知り身近に感じてもらうことを目的に、市内の子供たちも通っている県立大子特別支援学校と市役所をオンラインでつなぎ、小学部21名、中学部15名の児童・生徒を対象として、異文化理解の授業を行いました。

はじめに、パラオに生息するイルカやクラゲなどの海の生き物やパラオの食べ物のほか、本市とパラオのつながりなどを、写真や動画で紹介しました。次に、パラオの現代的なリズムのダンスをみんなで踊った後、子供たちから「パラオに電車ははしって

いますか？」「どんなお魚をパラオで見ましたか？」など沢山の質問が飛び交い、パラオへの興味関心の高さを伺うことができました。参加した子供たちからは、「パラオが身近で特別な国になった」「楽しい授業でパラオに行ってみたいと思った」などの感想があげられました。

また、交流終了後の2月4日（水）、大子特別支援学校の給食は、「パラオ特別メニュー」となりました。子供たちは、交流を振り返りながら、パラオにちなんだ料理を味わいました。



▲オンライン交流の様子



▲パラオ特別メニュー